

松尾鉱山資料館

2024(令和6)年10月現在

◆松尾鉱山資料館とは

旧松尾村地域の考古、民俗及び松尾鉱山の各分野の資料を保存・展示する「松尾歴史民俗資料館」として、1981(昭和56)年に建設されました。2014(平成26)年4月からは「雲上の楽園」といわれ東洋一の硫黄鉱山であった松尾鉱山に関する資料の保存・展示をし、その存在や意義を後世に伝えることを目的とした施設です。



◆学びと体験のおすすめポイント

- ★環境問題と経済成長のバランスの散り方・両立について学ぶきっかけになる。
- ★鉱山廃止から温泉開発、地熱を利用した新たな産業への転機と、1つの産業の衰退とともに別の産業が生まれ、地域が存続していく姿を感じることができる。

◆受入概要

開館時間	9:00 ~ 16:30 (入館は16:00まで)
休館日	毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合、翌平日) 年末年始(12月29日~1月3日)
入館料	無料

◆問合せ先

八幡平市松尾鉱山資料館

〒028-7303 岩手県八幡平市柏台2丁目5-6

TEL: 0195-78-2598

Mail: kouzan@city.hachimantai.lg.jp

HP: <https://www.city.hachimantai.lg.jp/soshiki/shokanka/2017.html>



◆体験できるSDGs



松尾鉱山の衰退に伴い、その資源を活用して、温泉開発・地熱発電・地熱利用と八幡平の歴史が移り変わってきた歴史を感じることができます。

また、旧松尾鉱山の歴史が、現在における持続可能な地域の実現につながっていることを実感することができます。

◆歴史的背景

松尾鉱山は、八幡平の中腹にあり標高 1,000m の高所に位置します。1882 年（明治 15）に発見され、1914 年（大正 3）横浜の貿易商だった中村房次郎が松尾鉱業株式会社を創立し、硫黄と硫化鉄鉱を採掘しました。茶臼岳東南の尾根には、火山由来の硫黄交代鉱床があり、約 2 億トンの埋蔵量が確認されています。

今では廃墟となったアパートが残る緑ヶ丘には、半年間は雪に覆われる厳しい環境にも関わらず、かつて 1 万 4 千人を超える人々が暮らす「雲上の楽園」と言われた近代的な街がありました。従業員たちの収入は、一般サラリーマンの 2 倍以上、昭和 20 年代後半からは、水洗トイレ、セントラルヒーティングが完備された鉄筋コンクリート 4 階建てのアパート 11 棟、2 つの映画館、中学校や病院が新築され、購買部では、東京本社から送られる新商品をいち早く購入できました。旧松尾村の財政の約 9 割は松尾鉱山からの収入だったと言われています。当時、村としては全国でも珍しく、国からの地方交付税なしで運営できていました。また、松尾村の人口は、鉱山人口の増加に合わせて増加し、鉱山の閉山とともに急速に減少していきました。

年次	研究所の沿革
1882（明治 15）年	旧松尾村の佐々木和七・和助兄弟が硫黄鉱床の大露頭を発見
1888（明治 21）年	佐々木和七・和助兄弟が試掘願を提出
1914（大正 3）年	横浜の中村房次郎氏、「松尾鉱業株式会社」を創立
1917（大正 6）年	小学校が開校し、従業員のためにビリヤード場やテニスコートを作り、広い荷造場では定期的に活動写真を上映
1920（大正 9）年	親会社が倒産、スペイン風邪で一操業停止、その後硫黄・硫化鉄の需要増
1955（昭和 30）年頃	100 万トンを生産する「東洋一の硫黄鉱山」となり、創業以来約 60 年間で約 3000 万トンの鉱石を生産
1969（昭和 44）年	精製硫黄が市場に出回り、経営環境が悪化し、事実上の閉山
1972（昭和 47）年	正式に鉱業権放棄



写真：選鉱場の全景
（昭和 36 年頃）



写真：緑ヶ丘アパート
（昭和 26 年 10 月 25 日竣工）